

----- (はじまり) -----

タケシ「こういう方法なら勝てるかもな...何しろもう5回連続で幹事役だよ。大体、ジャンケンで負けたら幹事ってなんだよ、もう...」

アスカ「何ぶつぶつ言ってるの？今度の合コンはちゃんとやりなさいよ」

タケシ「はいはい、分かってます。イケメンを揃えればいいでしょ。それにしても、アスカ先輩は絶対にジャンケン負けないですよな」

アスカ「私？そうね。昔からジャンケンが強かったわね。ここ一番で負けたことないし」

タケシ「そうですか...。あ、ところで、今人気の3人組イケメンの人気投票データがあるんですけど、投票に偏りが無いかどうかってどうやるんだったっけ？」

アスカ「イケメン？ちょっと見せてみなさいよ」

『イケメンアンケートの結果』 11567人に聞きました。付き合うなら誰？  
イケメン 4054人  
イケメン 3849人  
イケメン 3664人

タケシ（本当は下のデータが本物なんだけどね。ばらしちゃうとジャンケンで勝てなくなるからなあ。アスカ先輩には上のデータで頑張ってもらおうと）

『ジャンケンの結果』 725人と11567回ジャンケン。最初に出す手。  
グー 4054人  
チョキ 3849人  
パー 3664人

アスカ「1万人以上に聞いたの？ずいぶん大規模ね。この手のアンケートにしちゃ変な感じがするけど...」

タケシ「えっ、まあ、いいじゃないですか。ほらここ、 の人」

アスカ「あっ、私一押しのイケメン が一番人気ないじゃない！たまたま最後になっただけじゃないの？これ」

タケシ「でしょ。で、3人の投票数に優位差があるかどうかはどうすれば...」

アスカ「そ、そうね。適合度検定を使えばいいんじゃない。もし、無作為に選ばれるとすれば $11567 \div 3$ 人がそれぞれに投票するわけだから、こんな感じね」

現実値	理論値
4054	3855.67
3849	3855.67
3664	3855.67

アスカ「現実値が理論値と比べて偶然とは思えないほど、ずれていると統計的に示せばいいわけよ」

タケシ「ほう、ほう」

アスカ「実際にこれを適合度検定すると、結果の検定量は19.7415。確率にして $5e-5$ だから、ほとんど0%の確率ね。余裕で有意差ありね」

タケシ「つまり明らかにゲー、あ、いやイケメン は多たってことですよね」

アスカ「というか、誰が一番かは別として均等ではないってことね。私としては、ちょっと不本意だけどね」

タケシ「僕も残念ですよ。イケメン はアスカ先輩のお気に入りですもんね」

タケシ（へへ。これで僕もジャンケンに勝てるかも。ゲーに勝つのはパーだから最初にパーを出せば勝つ確率が高くなるってわけだ！）

\* 合コンからしばらくして...

タケシ「アスカ先輩！この前の合コンでやったゲームの景品なんですけど、後で男性陣と女性陣の代表がジャンケンして、買ったほうが貰うってことになってたでしょ」

アスカ「え？酔って覚えてないけど、そう言えばそんなこと話してたわね」

タケシ「で、男性陣の代表は僕ってことで、女性陣の代表とジャンケンすることになったんですよ。確か女性陣の代表ってアスカさんですよ」

アスカ「そうだけど、なんでジャンケンに弱いあなたが？」

タケシ「それは...い、いいじゃないですか。ま、弱い僕に負けるってことはアスカさんのジャンケンも大した...」

アスカ「ジャンケン！」

タケシ「あ、ちょ、ちょっと待ってください！（た、確か、パーだ。パー）」

アスカ「ポン！」 チョキ

タケシ「ポン！」 パー

アスカ「アハハ。私の勝ち。景品は女性陣が頂くわね」

タケシ「ど、どうして、チョキなんて出すんですか！」

アスカ「何よ。何出したっていいじゃない。人は突然ジャンケンされると反射的にパーを出すの。だからチョキを出せば勝てることが多いのよ。特にあなたのようなタイプには効果テキメンってわけ」

タケシ「り、理論どおりじゃない…」

----- (つづく) -----

Copyright(C) 2005 rpn hacks! All rights reserved